

カルメル 霊性センターニュース



カルメル宣教修道女会(宇治カルメル)

2018年2月

339号

目次

| | |
|------------|-----|
| 目次 | 1 |
| 心の泉 | 3 |
| カルメル会の企画案内 | 2 1 |
| 東京 | 2 2 |
| 北陸 | 2 7 |
| 京都 | 2 8 |
| 諸所の企画案内 | 3 1 |
| 郵送お申込みのご案内 | 4 2 |
| 編集後記 | 4 3 |



心の泉



聖ヨゼフと幼きイエズス像（宇治修道院）



第三卷

第八章 神のみ前に自分を卑しめる

3 感謝

私の神よ、あなたは祝されますように。あなたは、まったく恵みを受ける価値がない者にも、その寛容と限りない慈悲によって恵み、恩知らずやあなたから離れ去った者にも恵みをそそぎ続けてくださるからです。私たちを、あなたのほうに向けさせてください。私たちを、感謝の心を知る者、謙虚な者、信仰ある者にしてください。私たちの救いと徳と力とは、あなたのうちにあるからです。》

第九章 すべては究極目的である神に向かう

1 主

《子よ、真に幸福になろうと思うなら、私はあなたの最高の、かつ究極の目的にしなければならない。この意向は、自分自身と被造物とに傾きがちな、あなたの愛を清めるであろう。もし何か自分だけの満足を求めるなら、すぐに枯れ果てて衰退するであろう。すべてを与えたのは私だから、すべてをまず私に帰しなさい。そして一切は最高の善から出るもの、すべてはみなもとである私に帰すべきものだと思いなさい。》

2 すべての恵みの泉

小さな者も偉大な者も、貧しい者も富む者も、生きた泉である私から生きた水をくむのである(ヨハネ4・10-15参照)。進んで自由に私に仕える者は、豊かに恵みを受ける。しかし、私以外に光栄を求め、また何かほかの物事に慰めを求める者は、真の喜びに休まず、その心は広がらず、いろいろなさまだけにあい、悲しみを見いだすだけである。だからあなたは、善を自分自身に帰してはならない。何かの徳を何物にも帰してはならない。すべては神から来るものであって、神からのものでなければ、人間は何一つ持っていない。すべてを与えた私は、すべてが私に返されることを望む。しかも、それに対して感謝することを、おごそかに要求する。

キリストのまなざしのもとに

わたしのために そんなにも小さくなられた神を、
わたしは恐れることはできません。
わたしは幼きイエスを愛する！
愛といつくしみそのものである方を。*

テレーズ



庭の梅の樹の枝は2月の厳しい寒さの中すでに小さなつぼみをはらむでいます。春の生命の歓びを一番に告げる梅。・・・すうと通り過ぎる風が梅のほのかな香りを漂わせ、春の訪れを私たちに告げてくれるのももうすぐ・・・。

新しい年の初めにいろいろな決心をし、希望をいだいて歩み始めたのに、「主は、はたしてみ顔を私に向けていてくださるのかしら」と思う日があるかもしれません。そんなときテレーズのこの言葉に新たな信頼の息吹を感じます。私たちの失敗も、弱さも、罪さえ何ものも神の愛へ立ち戻りたいと思うものにとっては妨げとはならない、それだけでなく神の慈しみを誘い込むきっかけにさえなることを。この言葉は*、テレーズが帰天1か月前熱で震える手で1枚のご絵の裏に書いたものです。テレーズが天国に行ったら、この罪深い自分にあきれるだろうとおもい悲しむ霊的兄弟ベリエール神学生へテレーズは手紙を書きました：「・・・天国の聖人方は、私たちの惨めさに深い同情を寄せておられると思います。聖人方はご自分も私たちのようにもろい、死ぬべき人間として、同じ過ちを犯し、同じ戦いに耐えてこられたのを思い出し、その兄弟としての愛が、地上にいらしたときよりもますます深くなるので、たえず私たちを守り、私たちのために祈ってくださいます」聖テレーズ著作全集中書簡では最後の手紙（1897、8/25）

＝『幼いイエズスの聖テレーズの手紙』235 福岡カルメル訳、中央出版社

さあ、今日も一日・・・このわたしのためにそんなにも小さく
なられた神の私たちへの愛に信頼しましょう。



*『テレーズの祈り』36p 伊従信子編 聖母文庫

伊従 信子（いより のぶこ）
ノートルダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（6）

くのり 彰

パウロが言うように、イスラエルの人々もすべてのものの中に「目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性」を見てきたのであろう。旧約聖書ではすでに詩編を見てきたが、ダニエル書でも、まさに全被造物を通して創造主である神が賛美されている（カトリック教会では「教会の祈り」の第一主日や第三主日の朝の祈りの第二唱和として唱えられている。新共同訳では旧約聖書続編の『ダニエル書補遺』にある）。

造られたものは みな神を賛美し、
代々に神をほめたたえよ。
天のすべてのものは神を賛美し、
神の使いは神をたたえよ。

空の上の水は 神を賛美し、
天のすべての力は神をたたえよ。
太陽と月は神を賛美し、
空の星は神をたたえよ。

雨と露は神を賛美し、
すべての風は神をたたえよ。
火と暑さは神を賛美し、
冬の厳しさも神をたたえよ。

この後、「霞と霧」、「霜と寒さ」、「氷と雪」、「夜と昼」、「光と闇」、「稲妻と雲」と気象現象が続き、次に「大地」、「山と丘」、「草木」、「泉」、「海と川」、「海の獣」、「水に住む生き物」、「空の鳥」、「野の獣と家畜」と山川草木、動物が現れ、最後に「人」が登場する。さらに、「神をたたえる人」として「イスラエル」、「神の祭司」、「神の僕」、「神に従う人」、「神を敬い、へりくだる人」、「アナニア、アサリア、ミサエル」が挙げられ、彼らも皆共に「神を賛美し、神をたたえよ」と繰り返される。壮大なこの賛歌は、いっさいのものが神に支えられていること、神の恵みの中にあることへの感謝の祈りとなっている。



十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (121)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「人間的・神的教育法」

十字架のヨハネは、首尾一貫した教育法をもたらしましたが、それは、きわめて人間的かつきわめて神的な教育法以外の何ものでもありませんでした。人間の支配においては神ご自身も従うことになるように述べているように、きわめて神的な三つの規範あるいは基準です。すなわち、秩序（順序）と穏やかさと各人の在り方への適応です（『カルメル山登攀』第二部 17 章）。

十字架のヨハネは、このような「神的方法」について語ります。私たちがこの方法をほとんど知らず、これをほとんど尊重せず、まさにこのゆえに、おびただしい教育的な間違いを犯すことを、ずけずけと告発する人のように、嘆いています。「諸徳や神に関する事柄が暴力的に荒々しく納得させられるのを、今まで一体だれが見たことがあるか」と。

人を聖なる、真の人間にするための教育法とは、秩序と穏やかさと適応のそれではなければなりません。それは、人間の歩みに合わせることでありますが、神ご自身が、人間が隣人に対して行う以上に、私たちの自由と私たちの在り方を尊重し、その歩みに合わせ、従われるのです。



年間第5主日 (マルコ1:29-39)

“みんなが捜しています”

今日の福音はわたしたちの心を主イエスに集中させます；

人に仕える方、イエス：朝から晩まで精力的に働き、周りの人たちの求めに応じるイエスがおられます。自分を顧みず、イエスを必要としている人の傍らにはいつもおられます。心から人を愛し、その愛はイエスの周りの人たちへの無償の奉仕に駆り立てます。町中の人イエスに会いたいと殺到し、その一人ひとりに心を開き向かい合ってください。福音を語り、神の愛を説き教え、病人を癒し、悪霊を追い出し、多くの人を幸せにしてくださいました。イエスは全くの奉仕の方です。

祈りの方、イエス：奉仕の一日が終わると僅かの休息をとり、朝早く起きて人里離れたところで祈りに専心されました。イエスの宣教活動と祈りの生活は調和のとれたものでした。独りで天の御父と親しく交わる祈りの時間を大切になさいました。祈りのうちに力を得、御父のご計画に従って行く決意を強めて行かれました。余りにも長く祈りに没頭されていたので、人々はイエスを捜し始めたくらいです。イエスにとって祈りは一時的な行為ではなく、毎日の生活に欠くことのできない最も大切な時間でした。

みんなが捜している方、イエス：“みんなが捜しています”と人々はイエスに言いました。イエスの周りの人たちの気持ち、望みをそのまま表しています。今、ここに生きているわたしたちも同様に神を必要としています。神であるイエスに出会いイエスとの交わりを持つことはわたしたちの究極の望みです。神もまたわたしたちを捜しておられるのです。イエスは祈りから醒めると次の町に向かわれます。みんなに神の国の福音を知らせるために。わたしたちはイエスを捜し、イエスはわたしたちを捜しておられます。何処で会えるのでしょうか？祈りにおいてです。祈りの中で、心と心を通わせ、わたしを大切に思ってください方と互いの大事な思いを語り合うことができるのです。この本質的な神の恵みの源である神との邂逅は、わたしたちが後に出会う人たちに神の光と力を与える結果をもたらすでしょう。祈りを通して、わたしたちの周囲の人たちに対する優しい思いは深く大きくなり、愛の行いにかき立てられ、イエスのように疲れることなく奉仕する者と成って行くのです

主イエスよ、どうぞ助けてください！わたしの最もよいときをあなたに差し出す恵みを与えてくださいますように！あなたをわたしの生涯の一番大切な方とするためです。怠ることなく朝早く目覚めさせてください！あなたと過ごす時間を得るために。あなたの大きな深い愛を経験させてください！みんなに知らせ分かち合うためです。あなたの救いの計画に与らせてください！あなたを捜し求めている人たちに手を差し伸べるために。あなただけを求める者にしてください！あなたは必ず応えてくださいます。

(Sr. Paulina)

年間第6主日 「重い皮膚病人のいやし」

イエスは重い皮膚病を患っている人を深く憐れみ、手を伸ばして触れ、その人を清くされました。イエスは、普通の人なら逃げてしまうであろう重い皮膚病患者がご自分に近づくことを許されたばかりでなく、深く憐れみ、その患部に触れてあげたのです。人から遠ざけられていた人が、人に触れていただいた！それだけでも彼は感動したはずです。かつて、コンビニの弁当ばかり食べていた中学生が、たまたま善意の人から手作りの弁当をもらい、食べながら涙をぼろぼろと流したという話を聞いたことがあります。それほど、人の温もりには、孤独を癒す力があるのです。

イエスの奇跡は、人間の自然の治癒力を増幅させるようにして行われたのではないのでしょうか？「病は気から」と言われますが、イエスの手から伝わってくるその温もりは、まず何よりも彼の心を癒し、その元気になった心が体にも及んでいくような仕方では癒していったのではないのでしょうか？

清くされた後、イエスはこの出来事の沈黙を命じ、また「祭司に体を見せ、モーセが定めたものを清めのために奉げて、人々に証明しなさい」と言われました。レビ記14章に規定されているとおり、その儀式をとおして、彼は社会に復帰することができます。つまり、イエスは、彼を孤独な世界から人と人とのつながりの中へと連れ戻したのです。これはただの病気の治癒物語ではなく、人との絆の回復物語であるといえるでしょう。重い皮膚病が彼を人の輪から分断していたからです。

今、日本の社会では、このような病気はほぼ克服されたと言えるでしょう。しかし、人と人との分断されてしまうこと、人から遠ざかったり、遠ざけられたりしてしまうことは日常的に起こります。その原因は重い皮膚病ではなく、心にある皮膚病であることがしばしばです。「あの人の心には腫れ物があって、気軽に話しかけられない。」「あの人の腫れ物に触れたら大変だ！」という表現をよく使います。そのような心の皮膚病は、今でも私たちを悩ませ、人と人との間に壁を作ってしまう病気として存在しているのです。

もし、そのような状態にある人がこの重い皮膚病人のように、イエスに近づく勇気を奮い起こすならば癒されるチャンスがあるはずでしょう。誰も何もしないような心の皮膚病。その治療法は、本人がそのような病気であることを認め、イエスの前に行き、ひざまずく（へりくだる）ことから始まるのです。自らの悲惨を認め、その患部を包み隠さず、憐れみ深い医者であるイエスに見せることから始まるのです。イエスは今でも、そのような人の患部に優しく触れてくださることでしょう。そして、兄弟姉妹との良好な関係に向けて立ち上がらせてくださることでしょう。

罪は神に対して犯しているだけではなく、人との関係へも影響しています。霊的な皮膚病ともいえる罪をイエス様に診てもらいましょう。

(今泉健神父)

四旬節 第1主日 (マルコ 1:12 ~15)

「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」

私たちは四旬節という大切な季節を迎えようとしています。四旬節の間、教会は私たちに自分の生活を調べ、罪を悔い改め、償いをするように招いています。四旬節の目的は、自己放棄と祈りを通して、罪と自己本位を捨て、神のみ旨を行いたいという望みを起こさせ、まず自分の心に神のみ国を到来させ、神のみ国を生きたいという望みを起こさせ、浄化を準備することにあります。四旬節の真の目標は、とりわけキリスト者がイエス・キリストの死と復活を祝うことへの準備にあります。

神のみ国についてイエスが最初に宣言したのはガリレヤにおいてでした。イエスはここで新しい時代、新しい心の状態、急激な変化への呼びかけ、そして信仰への委託を宣言しました。神のときがついに到来しました。人類の向上と贖いへの神の永遠のご計画という「よい知らせ」が示されたのです。これら全ては、メシアであり神のみ子であるイエスによって説きあかされている福音への信仰の委託を目指しています。

聖パウロのことばに、それはキリストのためにキリストにおいて新しい人になることであり、人は徹底的にパーソナルな変化を経なければならないとあります。イエスは福音を信じるにより王国に入る実際的な道を唱えました。福音が真であると信じるだけでなく、福音が言っていることを信じること、更に重要なことはイエスのご人性を信じることです。このことは、福音に表されている生き方に完全に委託し、人生観を共有することを意味しています。これはイエスの価値にしっかりと立ち、イエスへの信仰を持ち続けるということの意味します。

この季節は悔い改め、断食、祈りのときです。自分の弱さから自分を清める道であり、イエスに従うために新たな委託をもって、イエスの受難、死、復活を祝う準備をします。キリスト者としてのパーソナルな委託に対して個人個人が反省するときです。ほんの少し反省しただけで、私たちは自分が言葉、行い、考えにおいて欠けていることに、また、福音が奨めているような人にはなれていないことに気づきます。私たちは従順の心や、奉仕の精神、他者への慈善によって、また祈りや犠牲心、神の愛における全てを通して、前進し、輝くように招かれています。四旬節の間に、開いた心をもって「神のことば」を受け取り、清められた心で主に導かれるように準備しましょう。そして心が主の王国の中心となるようお願いしましょう。

(Sr. Paulina)

四旬節第2主日 (マルコ9：2-10)

今日のみことばは、イエスが3人の弟子、ペトロ、ヤコブ、そしてその兄弟ヨハネを連れて高い山に登られ、お姿が変わった出来事、すなわち「主のご変容」の場面で、8月6日に祝う「主のご変容」の福音書と同じ個所が、四旬節の第2主日に語られます。

さてイエスの姿が、3人の弟子たちの前で変わったことを福音書は語っていますが、弟子たちは非常に驚いた様です。イエスの姿が変わっただけでなく、先祖から語り伝え聞いている、偉大な預言者エリヤとモーセが現れイエスと語り合っていたのですから。

弟子たちは非常に恐れていたとありますが、今日語られたマルコ福音書の箇所の前、ペトロがイエスに「あなたはメシアです。」と告白した場面がありました。しかし直後、イエスが弟子たちに受難予告すると、ペトロはイエスを諫め、イエスに叱られますので、イエスがどのような方か十分理解しないまま、このご変容の場面に出逢ったのでしよう。

その様な中、雲が弟子たちを覆い、「これはわたしの愛する子。これに聞け。」という声が聞こえてきた訳ですが、これも弟子たちにとっては予想だにしない驚くべき出来事だったことでしょう。イエスは誰なのか、どういうお方なのか、その問いが彼らの中で深まっていったことでしょう。

そしてイエスからは、「人の子が死者の中から復活するまでは、今見たことをだれにも話してはいけない」と命じられ、この言葉を心に留めて、「死者の中から復活する」とは何であるのかを論じ合ったとあります。

イエスはどのような方で、死者の中からの復活はどんな意味があるのでしょうか。四旬節、イエスが十字架につけられ、死んで葬られ、復活する…救いの偉大な業を記念して祝う前の準備の時、回心の時、この時をご一緒に歩んでいる私たちですね。

弟子たちの様に「死者の中から復活する」とは何であるか、イエスが誰であるのかをあらためて思いながら、弟子たちと歩んで下されたイエスと私たちも共に歩みながら、良い準備のうちに、主のご復活に向かって歩んでゆきましょう。

(Fr. 古川利雅)

「あなたのこれまでの人生をふり返って、それを漢字一字で表すとしたら、何という字になりますか。 皆さん考えてみてください」

びっくりしてテレビの画面に目を向けました。

そこには、番組のトピックスとして「エンディングノートの書き方」という講座の様子が紹介されていて、講師が居並ぶ受講者の面々に向かって、そう問いかけたところでした。 私は興味をそそられました。

「エンディングノート」を書きたいと思い立っても、いきなりでは何をどう考え、整えていったらいいのかがわからないということで、専門の講師による教室が開かれているのです。 自分の人生を漢字一字に表してみるということが、エンディングノートの先ず最初の第一歩ということのようでした。

受講者は多少戸惑いながらも、案外すらすらとつぎつぎに、自分の人生の一字を発表していました。

「続」「活」「耐」「愛」「遊」…… ほおー、うーん、へえー、と言葉にならない感嘆詞、感嘆符が飛び交い、受講者の表情は積極的で生き生きとしていました。 自分のこれまでの人生に漢字一字を与えることは、きっと何らかの確かな糸口となり得たのではないかと思えました。 講師の提案は、正解のようでした。

残念ながらテレビ番組の方は続きを見なかったのですが、この後どのように発展していったのかがわからないのですが、それにしても人生を漢字一字に表してみるというそのことは、なるほど、確かに、と心から感服したのです。

私は「エンディングノート」そのものは見たことがないのですが、以前友人が書くに際して、話し相手となってあれこれと何やかやと一緒に考えたりしたことがありました。 実は当誌にその時のこぼれ話を載せたりもしました。

漢字一字に大いに興に乗ってしまった私は、その友人にこの話をもちかけてみたのです。 あなたの人生、何という字になる？と。

友人はうーんと唸りました。

面白いことに問われた者は皆先ず息を止めるようにしてうーんと黙します。それは他の質問に対してのうーんとは何か違ったものに思えるのです。

そして答えを聞いた者も、ほおー、うーん、へー、とか、とにかく言葉の前の言葉にならない声を発するしかないようで、人生というもの、それもゆうに半世紀を越える人生を前にして、それが如何なるものであれ、誰もが厳肅な気持ちになり、敬意をもって接するものであることの現われであるように思います。

友人は唸りつつの黙考の末、「私」だと言いました。「私」というものをすごく意識してきたと思う 常に「私」でありたかったと。

今度は私がうーんと唸る番です。いかにもあなたという感じするよ あなたらしいよ。 あなたは何？ と友人が尋ねました。「諾」かなと私。 だく？ うけがうとか うべなうとか うーん そうか そうか うーん、友人はたくさん唸ってくれました。

そんなふうに話が続いているとき、友人はふと言葉を継ぎました。

今 思ったんだけど わたしこんなに老人になっても まだ「私」を生ききってないんだなって気がした もし ほんとうに「私」を生きているのなら「私」なんて言わなくてもいいと思った うーん そうか うーん……

漢字ってすごくいっぱいあるから いろんな意味や形で何か当てはまるよね…… うん。

期せずして深みに向き合うようにと促すかの時間が訪れ、互いが少し深くなっていくのがわかりました。

「過去は、想い出されている限りにおいて、それは 現在である。」

以前何かの本で見た言葉をふと思い出しました。 人生というもの、生きてゆくそのことが、とても不思議なことに思えて、今、私は、何か途方もない未知のさ中にいるような感じがしています。

自分のこれまでの人生を漢字一字で表すという設問は、逆にこれまでの人生からの問いかけのようであり、考えてみれば「エンディングノート」ということにふさわしい静謐な深さをもたらしました。

もしかしたらテレビの講座の目的からは、脱線もいいところだったかもしれないのですが、今、私は真剣であり、また豊かであり、満ちています。

(上野毛教会 信徒)

いのちの言葉 2月

渴いている者には命の水の泉から価なしに飲ませよう

(黙示録 6・21)

使徒ヨハネは、至る所で迫害にさらされている当時のキリスト者たちを慰め、勇気づけるために黙示録を書きました。

象徴的なイメージを用いて書かれたこの書物には、世の終わりに神があらゆる悪の力に対し、決定的な勝利をおさめることが記されています。

民はすべての苦しみから解放され「(神は)彼らの涙をことごとく拭いとして下さる。もはや死はなく、悲しみも嘆きも労苦もない」(黙示録 21・4)ともあります。

世の終わりに悪がまったく存在しない至福が実現すること、その至福は、神を真摯に探し求める人や、み言葉を実践する人のうちに、また真理や正義、兄弟愛に飢え渴く人のうちに、今すでに芽生え始めているとも記されています。

人が心に渴きを覚え、何かを探し求めること自体、神にとってはすでに好ましいしるしなのです。

渴いている者には、命の水の泉から価なしに飲ませよう

神から無償で与えられるこの水は、そのために努力する人にだけ与えられるものではありません。自分の弱さを認め、神の愛に自らを委ねる人や、神の癒しを信じ、そこに平和を見出す人…このような人には誰にでも、神はこの水を与えて下さいます。

自分にはどんな渴きがあるのだろうか？その渴きを癒す泉はどこにあるのだろうか？と、私たちも自問してみてはいかがでしょうか。

渴いている者には、命の水の泉から価なしに飲ませよう

たとえば良い地位を得たり、自分の計画の実現を望むのは当然のことかもしれませんが、そうしたことを人生の最大の目的とするなら、利己心に“汚染された”井戸に落ち込んでしまい、他の人に心を閉ざし、最も弱い立場にいる人を踏みつけてしまう恐れがあります。

水は生命の維持と健康に必ず必要な資源ですが、同じように福音も、私たちには必要不可欠な“水”なのです。

ところで、私たちの心の一層深いところには、神ご自身から来る「別の渴き」があります。それは神ご自身が語りかける声であり、人生を贈り物として受け取り、贈り物として使うようにと、私たちを招く声です。

自分の考えに従うのではなく、福音の源泉から湧き出る純粋な言葉によって、自分を変えられていくままに任せましょう。そうすれば私たちも、人生の苦難に出会いながらも、人々に対して寛大で、無償の愛を与える泉のような存在になれるでしょう。

「命の泉」についてキアラはこう記しています。

「福音を生きる瞬間は、生きた水を一滴ずつ口に入れるようなもの。隣人に対する愛の行いの一つひとつは、命の水を一口ずつ飲むようなものです。この貴い生きた水は、すべての人を愛そうと心を開くたびに、心の中に湧き出る水であり、愛の行いを通して人々の渇きを癒せばいやすほど、神の泉の水が豊かに溢れ出ます。周りの人に対して、このような行いを続けるなら、心の平和と命の泉は、決して乾くことなく、一層豊かに水が湧き出るでしょう。

また、イエスはもう一つのことを教えて下さいました。それは、いくら水を汲んでも決して乾くことのない井戸に似ています。『二人三人がイエスの名によって集まり、互いに愛し合うとき、イエスが私たちの真ん中にいて下さる』ことです。そのとき、私たちは自由になり、一つに結ばれ、光で満たされるのを感じます。そしてイエスが約束されたように、私たちの内から『生きた水が川となって溢れ出る』でしょう。永遠に渇きをいやす水の源は、私たちの真ん中におられるイエスご自身だからです。』¹

レディツィア・マグリ

1.キアラ・ルービック、「命の泉」チッタノーバ誌、46(2002年)4.p.7参照

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

★いのちの言葉の集いと新年会

関東 2月11日(日)13:30~神奈川 カトリック藤沢教会 204号室
(週日に、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 2月11日(日)14:00~ 瀬戸市みずの坂サポートハウスゆうや

長崎 2月25日(日)11:00~ 浦上教会 要理教室

★一日 マリアポリ(藤沢)

3月11日(日)11:00~16:00 カトリック藤沢教会センターホール

★キアラルービック帰天10周年追悼ミサ

とき:2018年3月17日(土)15時~ 場所:四谷 イグナチオ教会主聖堂

連絡先:フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: conil157ch1.wix.com/focolare-jp



糸巻き棒からペンへ(28)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

聖書を読むことと同じことが、個人的な祈り（すなわち、瞑想や黙想や内的生活）の実践にも起こりました。今日では不可解なことですが、当時は、この分野は女性には禁じられていたのです。「念祷は女性のためのものではない。彼女たちは妄想に陥るだろうから。彼女たちには糸紡ぎをさせるのが良い。そのような微妙なことにはふさわしくないのだから。彼女たちには、『主の祈り』と『天使祝詞』だけで十分だ」(CE35,2)と主張する人々に、テレジアは、引き続き対抗しなければなりませんでした。

大多数の考えに対し、彼女は、祈りの領域では、女性の方が男性よりずっと進歩すると主張しています。「このようなお恵みを主がお与えになるのは、男性より女性の方が多く、聖なるアルカンタラのペドロ修士からうかがいました。わたしもそのように思います。同修士は、女性たちは、男性よりも、この道においてずっと多くの進歩をとげると断言なさり、それについてすぐれた理由をお挙げになりましたが、それはここに書く必要はありません。それにそれらのみは、女性に対して好意的なものばかりです」(『自叙伝』40,8)。そして修道女たちに、逆のことを信じさせようとする人々から、ちょうど悪魔から逃げるように、遠ざかるように助言しています。

糸巻き棒からペンへ

テレジアは、彼女が置かれている女性蔑視の状況をはっきりと意識していました。そこで説得力のある彼女の能力を、著作（や彼女自身）が火あぶりにならないよう、絶えず利用する必要がありました。すべての著作で、彼女は、糸巻き棒で糸を紡いで時間を過ごさなければならないこと、またそれが、同時代の社会が女性に期待していることだと述べています。そして書くことは、聴罪司祭に対する「従順のもとで」、少なくとも「その許可によって」であることを付け加えています。

それでもなお、時々、書きたいという望みを、彼女は表明しています。それは、言うべき有益なことがあると意識していたからです。「司教様に私は手紙を送り、(以前書いた)『自叙伝』を送ってくださるよう頼みました。というのも恐らく私は、それ以後、主が私にお与えくださった恵みを書くことによって、それを完成するようかき立てられるでしょうから。そうでなければ、別の大きな本を書くことになるかもしれません」(手紙 174,26)。

(続く)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2017年12月29日

教皇フランシスコから教皇庁の人々へ、 カルメルのクリスマスプレゼント



教皇フランシスコは、12月21日、教皇庁の人々（各省庁の長官たち）に恒例のクリスマスの挨拶と講話に続いて、出席していた枢機卿、司教、長官たちに今年の贈り物を披露されました。

この時、教皇は、二冊の本を贈られ、その一冊はバチカン印刷所で発行された、跣足カルメル修道会司祭、幼きイエスのマリー・ユージェヌ神父の著書、イタリア語訳『私は神をみたい』でした。

この本について、教皇は、列席者に向かって、「これを読むと、とてもためになるでしょう。…おそらく、全部読まなくてもいいかもしれません」と本の厚みに触れながら、「皆さんは本の目次を見て、最も関心のあるところ、また最も必要と思われるところを探して読んでください。」と冗談ぽく紹介されました。

カルメル誌 新刊案内



2017年 冬号 No.367

《今年の特集 三位一体のエリザベトの霊性》
三位一体のエリザベトにおける「人間の召命」(4)

九里彰
エリザベトの最後の手紙—「愛されるままに」
須沢かおり

風に吹かれて(14)—結び目を解く
原 造

「わたしの最初の子供」
—幼きイエスの聖テレーズとブランジニ 中山眞理

フランス便り(4)見失ったわたしの羊を見つけました
—“聖なる”ものになるように あなたも囃まれています
伊従信子

ファティマ100年の恵み
ポーリン・フェルナンデス

道元の霊性に学ぶ(4)
—「自己をならふ」ことと他に開かれること
田畑邦治

神が慈しまれた道(16) 奥村一朗



特集号「三位一体の聖エリザベトの祈り」
—現代人へのメッセージ—

エリザベトと共に生きる—永遠の光のもとで
片山はるひ

続・歴史の中の三位一体のエリザベト
大瀬高司

三位一体のエリザベトにおける苦しみの神秘
九里彰

三位一体のエリザベトによる
「聖書に基づくキリスト中心の生活」
ポーリン・フェルナンデス

父と子と聖霊の唯一の神を信じる
—三位一体のエリザベトと共に
松田浩一

ご案内

1冊 460円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会
信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、600円【460円 (+送料 140円)】程度の献金を
下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費 (年5冊：春夏秋冬
+特集号 計 3,000円) を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356

10月18日(水) 発売予定

サンパウロ 新刊案内

愛と英知の道

— すべての人のための霊性神学 —

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによつて牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし、ておられる方々にも、本書を勧めています。

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 背 景（1）
- 第2章 背 景（2）
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対 話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアソシア
- 第9章 神秘主義と根源的なキリスト教
- 第10章 英知と（愛）

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗 夜
- 第14章 〈愛のうちにある〉
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英 知
- 第18章 活 動
- 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アラルランドのバルブアストンに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学、上智大学などで講じるがかわらぬ。東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パトリック・アルペ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性深求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。

• A5判 • 600頁 • 並製 • 定価 3,400円+税 • ISBN978-4-8056-0064-1 C0016



最新刊のご案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

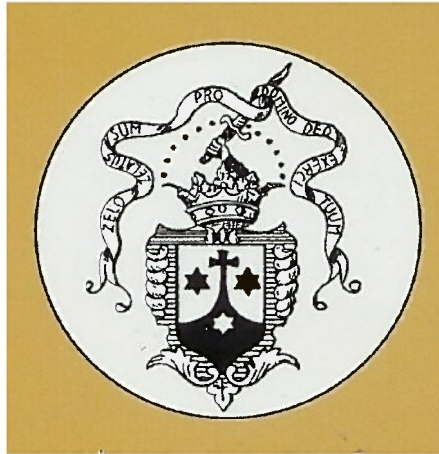
——— 目次 ———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

上野毛霊性センター(東京) (2018年2月～2019年3月)

黙想企画 **上野毛聖テレジア修道院(黙想)**

祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2018年 3月29日(木)夕食～4月1日(日)朝食<講話なし、各食事つき>

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2018年12月24日(月)～25日(火)朝食<講話なし、夕食なし>

聖書深読黙想会 大瀬高司神父

2018年 3月24日(土)夕食～25日(日)午後4時

6月 2日(土)夕食～ 3日(日)午後4時

9月29日(土)夕食～30日(日)午後4時

12月 1日(土)夕食～ 2日(日)午後4時

日帰り黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

2018年 2月 8日(木) 2月23日(金) 3月 8日(木) 3月23日(金)

4月26日(木) 5月11日(金) 5月24日(木) 6月28日(木)

7月 6日(金) 7月26日(木) 10月26日(金) 11月8日(木)

11月30日(金) 12月13日(木)

2019年 1月11日(金) 1月24日(木) 2月 7日(木)

2月22日(金) 3月 7日(木) 3月22日(金)

*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

奉獻生活者のための黙想会 福田正範神父

2018年

8月 1日(水)17時～ 8月10日(金)朝

8月16日(木)17時～ 8月25日(土)朝

12月27日(木)17時～ 1月 5日(土)朝

聖週間前の黙想会（過ぎ越しの子羊：キリスト）

2018年

3月16日(金)18時～18日(日)15時 福田正範神父

奉獻生活者ならびに一般信徒のための黙想会

2018年

10月10日(水)17時～10月19日(金)朝 福田正範神父

青年黙想会(男女) 35歳位まで

2018年

2月10日(土)16時～12日(月)16時 カルメル会士

4月21日(土)16時～22日(日)16時 カルメル会士

2019年

2月16日(土)16時～17日(日)16時 カルメル会士

召命黙想会(男女) 40歳位まで

2018年

11月23日(金)16時～25日(日)16時 カルメル会士

特別黙想会 S r. 伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）

2018年

11月16日(金)20時～18日(日)16時

- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ(<http://www.carmel-monastery.jp>)なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp



カルメル青年黙想会

あなたの信仰があなたを救った
あなたの信仰があなたを救った



日時： 2月10日(土) 16時 ~ 12日(月) 16時

場所： カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

対象： 高校生以上の青年男女(35歳まで)

定員： 20名

費用： 一般 10,000円 学生 5,000円

締切： 2月3日(土)

指導： 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

電話： 03(5706)7355

FAX： 03(3704)1789

E-mail： mokusou@carmel-monastery.jp

聖週間前の黙想会

過ぎ越しの子羊・キリスト

日時：

2018年3月16日（金）18：00～18日（日）15：00

指導：福田正範神父（カルメル会司祭）

場所：カルメル会上野毛聖テレジア修道院黙想の家

会費：¥12,000



*お問合せ、お申込み：

TEL. 03-5706-7355 FAX. 03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

聖書深読黙想会

【1泊】

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定されて聖書の言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交
わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、
福音を生きることです。皆様のご参加をお待ちしています。

- * 日時：2018年3月24日（土）18時～25日（日）16時
- * 場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
- * 指導：大瀬 高司師（カルメル会司祭）
- * 会費：¥7500
- * 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ
（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）
聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。
- * 参考書：「聖書深読法の生い立ち」（奥村一郎著 ¥1,080）
ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込みは、TEL、FAX、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

宇治カルメル会 2018年度 黙想会案内

【一般のための黙想】・1泊2日 (午後5時～午後4時)

- 1月13日(土)～14日(日) ~~日常生活を次の世代のため~~ 中川博道神父
5月26日(土)～27日(日) 「私の愛にとどまりなさい」(ヨハネ15・9) 九里彰神父
7月14日(土)～15日(日) 「真の霊性を探す教会」 中川博道神父
9月8日(土)～9日(日) 「人は新たに生まれなければ、
神の国を見ることはできない」(ヨハネ3・3) 九里彰神父
11月23日(金)～25日(日) ※2泊3日 「目覚めていなさい」 中川博道神父

【聖書深読黙想会】(午前10時～午後4時)

- | | | | |
|----------|--------|-----------|--------|
| 2月3日(土) | 中川博道神父 | 7月7日(土) | 九里彰神父 |
| 4月21日(土) | 九里彰神父 | 9月1日(土) | 中川博道神父 |
| 5月12日(土) | 中川博道神父 | 11月17日(土) | 中川博道神父 |

【水曜の黙想】(午前10時～午後4時)

- 1月24日(水) ~~イエス・キリストと聖パウロ~~ 九里彰神父
2月14日(水) 四旬節の課題 中川博道神父
3月14日(水) 自分の十字架を背負って Sr.ロサ
4月11日(水) エマオに現れた復活したイエス Sr.マイラ
5月23日(水) 「神の母を祝う」 中川博道神父
6月20日(水) 「まことの食べ物、まことの飲み物」 九里彰神父
7月25日(水) 「預言者エリアとカルメル」 中川博道神父
9月26日(水) 私を生まれ変わらせるユウカリスティア Sr.ロサ
10月24日(水) 「ピンチの時は注意深く」 中川博道神父
11月21日(水) 「永遠の命」 九里彰神父
12月19日(水) 私たちの内に宿りたいインマヌエル Sr.ロサ

【四旬節の黙想】(午後5時～午後4時)

- 3月3日(土)～4日(日) 過越しを生き抜くために 中川博道神父

【ゴールデンウィーク黙想会】(午後5時～午前9時)

- 4月29日(日)～5月4日(金) 「日常の中に隠された宝」 中川博道神父

【聖テレーズの黙想】(午後5時～午後4時)

- 9月29日(土)～30日(日) 中川博道神父

【カルメル青年の集い】(午前10時～午後4時)

- | | |
|----------|-----------|
| 2月12日(月) | 6月9日(土) |
| 4月14日(土) | 11月23日(金) |

【青年の黙想会】 (午後5時～午後4時)

9月15日(土)～16日(日) 中川博道神父

【一般のためのカルメル靈性】 (午後5時～午後4時)

10月13日(土)～14日(日) イエスの聖テレジア 中川博道神父

12月8日(土)～9日(日) 十字架の聖ヨハネにおける愛の変容 九里彰神父

【生活の中での靈的同伴】 (金曜午後8時〈夕食なし〉～土曜午後4時)

1月26日～27日

7月20日～21日

2月23日～24日

9月14日～15日

3月16日～17日

11月2日～3日

5月18日～19日

九里彰神父

【待降節の黙想】 (午後5時～午後4時)

12月1日(土)～2日(日) 「人となられた神」 九里彰神父

【奉献生活者の黙想】 (午後5時～午前9時)

5月28日(月)～6月6日(水) 中川博道神父

8月5日(日)～14日(火) 九里彰神父

8月16日(木)～25日(土) 中川博道神父

11月6日(火)～15日(木) 九里彰神父

12月27日(木)～1月5日(土) 中川博道神父

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30(講話なし、各食事つき)

【聖週間を祈る】 聖木曜日から復活祭まで、どの曜日からでも参加可能です。

3月29日(木)～4月1日(日)

【クリスマス】

12月24日(日)～12月25日(月)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは、電話でも受付ておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願ひ致します。受付が休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願ひいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願ひ

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしくお願ひいたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：7205805
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：56845391
名義：男子跣足カルメル修道会



男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel：052-671-1558 Fax：052-681-6445

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎18年度の内観は、月曜(午後2時)から土曜(昼食後)までの5泊6日です。

参加研究費は、関西5万円、関東5万5千円となります。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

5泊6日 月曜午後2時より 土曜昼食後まで

2018年予定

- T1 1/22 (月) - 1/27 (土) 兵庫西宮・トラピスチヌ
- K1 3/05 (月) - 3/10 (土) 東京小金井・聖霊会
- T2 4/16 (月) - 4/21 (土) 兵庫西宮・トラピスチヌ
- N1 5/07 (月) - 5/12 (土) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K2 6/11 (月) - 6/16 (土) 東京小金井・聖霊会
- T3 7/02 (月) - 7/07 (土) 兵庫西宮・トラピスチヌ
- K3 9/03 (月) - 9/08 (土) 東京小金井・聖霊会
- T4 9/24 (月) - 9/29 (土) 兵庫西宮・トラピスチヌ
- N2 10/08 (月) - 10/13 (土) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K4 11/05 (月) - 11/10 (土) 東京小金井・聖霊会



真命山 2018年 — 祈りの集いのご案内

毎月第2木曜日 (10:00～15:00)

指導者 フランコ神父

*は聖ザベリオ宣教会ダニーロ・マルケット神父

個人またはグループでの黙想会

研修会も歓迎いたします(要予約)

- 1月11日 五旬節続唱「聖霊、来たり給へ」
- 2月 8日 聖ボナベンツラの祈り
- 3月 8日 聖アンセルモの祈り
- 4月12日 聖フランシスコ・ザビエルの祈り*
- 5月10日 「サルベ・レジナ」
- 6月14日 聖心の連願
- 7月12日 ロヨラの聖イグナチオの祈り*
- 8月 休み
- 9月13日 幼いイエズスの聖テレジアの祈り*
- 10月11日 アッシジの聖フランシスコ作とされている「祈り」
- 11月 8日 シャールズ・デ・フーコーの祈り*
- 12月13日 「テ・デウム」

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com



講話と祈りの集い



2018年2月17日(土)

午後2時～午後5時30分

担当 片山 はるひ

講話・祈り・質問・分かち合い

場 所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）

参加費：200円

テキスト『神と親しく生きるいのりの道
幼きイエスのマリー・エウジェヌ師とともに』
（聖母文庫 本体500円＋税）を用いて、講話を致します。



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・・・開始日の8日前で締切ります

| コース | 日時 | 指導者 | 開催場所 | 申込み |
|-------------------------------|--|------|---|---|
| フォローアップ | 2/25(日) 9:30-17:00 | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F (四ツ谷) | 来間(くるま)裕美子※ TEL090-5325-2518 045-577-0740 |
| サダナⅡ | 3/17(土)17:30- 21(水)16:00 | Fr植栗 | 汚れなきマリア修道会 町田黙想の家 | 同上 |
| 入門A | 4/15(日) 9:30-17:00 | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F (四ツ谷) | 同上 |
| 那須リピーターの会 | 4/27(金)17:30- 30(月)14:00 | Fr植栗 | ベタニア修道女会 聖ヨゼフの家 (栃木県那須郡那須町 大字豊原) | 同上 |
| ダイアリー | 5/2(水)17:30- 5/6(日)16:00 | Fr植栗 | 上石神井無原罪聖母修道院 | 同上 |
| 入門B | 5/13(日) 9:30-17:00 | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F (四ツ谷) | 同上 |
| 自己を知る *1泊2日 ×2=合計 4日 | 5/19(土)9:30- 20(日)17:00 5/26(土)9:30- 27(日)17:00 | Fr植栗 | 上石神井無原罪聖母修道院 | 同上 |

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナⅠ (入門A.B.C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナⅡ

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナⅠを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel : 077-579-7580
Fax : 077-579-3804
Eメール : karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2018年 5月 6日(日)～5月14日(月)
- ② 8月14日(火)～8月22日(水)
- ③ 10月7日(日)～10月15日(月)
- ④ 12月27日(木)～2019年1月4日(金)

B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2018年 2月 2日(金)～2月4日(日)
- ② 2月23日(金)～2月25日(日)
- ③ 3月16日(金)～3月18日(日)
- ④ 6月22日(金)～6月24日(日)
- ⑤ 7月13日(金)～7月15日(日)
- ⑥ 9月21日(金)～9月23日(日)
- ⑦ 11月16日(金)～11月18日(日)

C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)

2018年 5月30日(水)～6月7日(木) 雨宮 慧師(東京教区)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。)

希望への道

2017年度 女子青年黙想会

| | 日時 | テーマ | 講師 |
|---|------------------|-----------------------|-------------|
| 1 | 4月22日(土)～23日(日) | なぜそのようなことがあり得ますか。 | 山内十束師(ご受難会) |
| 2 | 6月10日(土)～11日(日) | おことばのとおり、この身になりますように。 | 山内十束師(ご受難会) |
| 3 | 11月11日(土)～12日(日) | 神は卑しいはしためを顧みられた。 | 山内十束師(ご受難会) |
| 4 | 2月17日(土)～18日(日) | 心に納めて、思い巡らす。 | 山内十束師(ご受難会) |

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

希望への道

一心に納めて、思い巡らす

2017年度 第4回 女子青年黙想会

日時： 2018年 2月17日 (土) 15:00 ～

18日 (日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2018年2月11日 (日) まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

●キリスト教入門講座(右頁参照)

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本
テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座(右頁参照)

毎月第1・第3・第5火曜日
18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、
キリスト教の中心的テーマを探求します。
2年間のコース。

●土曜アカデミー

下記(予定)の土曜日:
9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリ
スト教哲学・神学の相互関係を考察します。
キリスト教思想史に関心を持っている方。
プログラムの詳細は、別途配布。

冬学期: 理性と神認識—中世—

2/3 中世後期女性神秘家(15世紀)

●神学読書会

第2・第4木曜日:18時～20時
上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と
神学に関する文章を読んで、話し合います。
祝日は休み。
・ミサ:上記読書会后20時～20時45分
クルトウルハイム1F右聖テレジア小聖堂
どなたでも。

●黙想

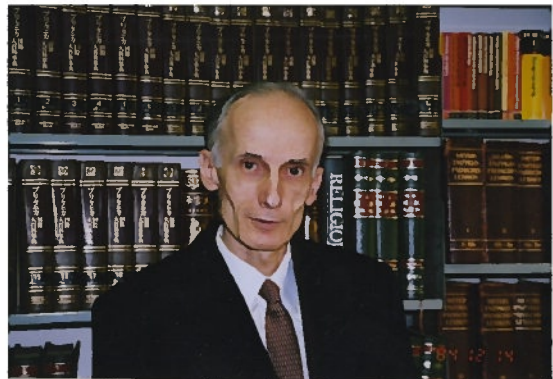
・「会社帰りの黙想」
毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時
聖イグナチオ教会マリア中聖堂
祝日は休み。
・「黙想会」
3月17日(土)～18日(日)(上石神井)
1泊2日。申込の締切りは、初日の10日前。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内
S.J.ハウス、第5応接室。講話、黙想、ミサがあります。
2月17日
・ロザリオの祈り
(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・第1、第3月曜日:18時00分～20時00分
上智大学内クルトウルハイム1階左の部屋。
2回坐り、間に講話。
(祝日は休み)



リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座

日時 毎週金曜日
18時45分～20時30分

2018年

- 2/ 2 神の言葉
— 神との日常的な対話と黙想の仕方
- 2/ 9 結婚と独身— 愛の道
- 2/16 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている
- 2/23 仕事という人間の課題
— 社会と教会に寄与して働く
- 3/ 2 人間の苦悩— 悪とは何のためか
- 3/ 9 死— その受け入れと克服
- 3/16 人生の完成— 神の内に生きる
- 3/17-18 ●黙想会(上智神井)
- 3/23 聖母マリア— 信じる者の原型

3/30 ○休み

- 4/ 1 ◆御復活祭のミサ(14時、上智大学内
クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)



キリスト教理解講座

日時 第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分

2018年

- [日常生活]
- 2/ 6 仕事と祝い
— 能力の活性化と人生の実り
- 2/20 困難と苦しみ
— 謙遜な自己奉獻と神への信賴
- 3/ 6 教会生活とミサ—「キリストの体」の神秘
- 3/20 秘跡の恵み
— たえざる刷新と神のいのちの深まり

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール TEL 03-3263-4584
クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1
上智大学SJハウス
電話 03-3238-5124(直通)
—5111(伝言)
Fax 03-3238-5056

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

14：00～16：00

【2018年予定】

~~1月18日~~ 第13の歌 **終了**
3月22日 第14及び15の歌（1～14）
5月24日 第14及び15の歌（15～30）
7月26日 第16の歌
9月27日 第17の歌
11月22日 第18の歌と第19の歌
12月20日 第20及び21の歌（1～19）

【2019年予定】

1月24日 第22の歌
3月21日 第23の歌と第24の歌

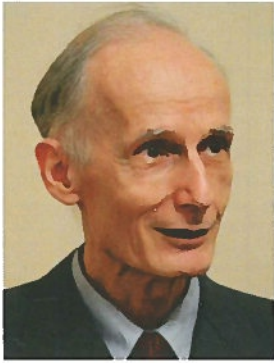
*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）



※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

| | | ISBN |
|-----|--|-----------------------------|
| 第1巻 | I 超越体験 — 宗教論 | 定価(本体+税) |
| | 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p | 9784862852151 3,800 円+税 |
| 第2巻 | II 真理と神秘 — 聖書の黙想 | |
| | 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p | 978-4862852175 4,600 円+税 |
| 第3巻 | III 信仰と幸い — キリスト教の本質 | |
| | 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p | 9784862852205 5,000 円+税 |
| 第4巻 | IV 思惟の歴史 — 哲学・神学的小論 | |
| | 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓けて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p | 9784862852212 4,000 円+税 |
| 第5巻 | V 自己の解明 — 根源への問いと坐禅による実践 | |
| | 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p | 9784862852229 4,200 円+税 |

●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学の人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座（新設）
へお振り込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-33318
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
《変わりました》 reisei@carmel-monastery.jp

「靈性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「靈性センターニュース」は、7月より、宇治靈性センター事務局で編集、
印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担し
ております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00910-6-33318
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

先日、電車に乗って、中吊り広告を見ていると、「人生 100 年時代」という言葉が目飛び込んできた。たしかに私の周りを見ても、90 歳を越す方が多くなっている。100 歳を越えている人の数は、日本では何と 6 万 7824 人だそうである(昨年の調査。因みに 1963 年ではわずか 153 人)。広告には次のような数字が載っていた。

100 歳まで生きたい 12.6%

生きたくない 65.3%

なぜ 100 歳まで生きたい人のパーセンテージが低く、生きたくない人が高いのか、詳しいことは書いてないので分からないが、要するに身体が不自由になったり、認知症になったり、多くの人に迷惑をかけるのはいやだ、寝たきりのような状態で命を長らえても意味がないと考えているのではないだろうか。ぽっくり寺ならぬぽっくり教会の登場が待たれるところである。新しいエルサレムについてイザヤはこう言っている。

そこには、もはや若死にする者も、年老いて長寿を満たさない者もなくなる。百歳で死ぬ者は若者とされ、百歳に達しない者は呪われた者とされる。(65・20)

(P. 九里)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

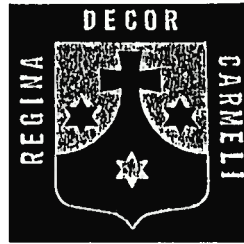
<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



『靈性センターニュース』お持ち帰りの方へ
一冊 100 円程度の献金をお願い致します



製本／発送のご協力お願い

「靈性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

3月号の製本/発送日 **2月23日(金) 午前10時頃から**
宇治修道院信徒会館

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

靈性センター事務局 ☎0774-32-7456